



朝夕めっきりしのぎやすくなってきました。さて、今年の篠山保育園の運動会は、新型コロナウイルス感染症予防対策を取らせていただきました。参加は3歳以上児のもも、ふじ、ばら組のみ、保護者の皆さんの人数制限、検温、消毒、参加者名簿の提出をお願いしました。皆様のご協力により運動会はスムーズに開催することができ、参加した子どもたちも一番かっこいい姿を家族に披露できたのではないかと思います。さくら、たんぽぽ組さんは参加できませんでしたが、日常の保育室では運動会ごっこで盛り上がっていました。来年は、小さいクラスのみみんなも参加できるよう願うばかりです。



もも、ふじ、ばら組さんは、運動会という行事をやりきった充実感を得て一段と成長したように感じます。体をたくさん動かした後には、今度は「静」の遊びを好み始めます。ごっこ遊びや制作遊び、絵本を読んだり、巷で言われる「読書の秋、芸術の秋」ということになります。心と頭に余裕ができ、子どもたちならではののもしろい発想がでてきます。これらの流れを保育展へとつないでいきます。



さて、これから少しずつ気温が下がっていくと思いますが、いきなり厚着にならないようにご配慮ください。ばら組、ふじ組さんくらいになると「寒さに負けないぞ」という気持ちを持つことで、一年を通して風邪をひくことが少ないようです。もちろん保護者の皆さんの協力も必要になります。そしてもし、風邪をひいたときには、今度はしっかり休ませ安静にすることを教えてあげたいものです。小さい時から病気への対応を考える環境をつくってあげることが必要です。その習慣は、大人になった時にも身につけているようです。



親子遠足 中止のお知らせ

11月に予定していましたが、もも、ふじ、ばら組さんの親子遠足は、バスの移動や目的地での他の団体との密を考慮し、新型コロナウイルス感染症予防の見地より、中止いたします。ご理解の程、よろしくお願いいたします。

ささやまっこだより

10月の行事予定表

- 8日(木) 第2回内科健診(14:00~)
 - 12日(月)~17日(土) オープン保育園
【市内私立保育園】(未就園児対象)
 - 17日(土) 園内研究会
 - 20日(火)~23日(金) 保育参観(たんぽぽ組)
 - 22日(木) ばら組山登り(ばら組のみお弁当)
 - 26日(月)~30日(金) 保育参観(さくら組)
 - 27日(火) 誕生会
- 5、19日 … えいごであそぼう(ふじ組)
12、26日 … えいごであそぼう(ばら組)

耳の健康

子どもは耳管の構造上、中耳炎を起こしやすかったり、難聴が発見しにくかったり、耳の状態により注意していかなくてはなりません。耳の聞こえやさまざまな病気など、確認のしかたと対処法を覚えて、早期発見早期対応になるよう、気を付けていきましょう。

○ことばと聴力

0~4歳は、ことばを覚える重要な時期です。この時両耳が聞こえない状態だと、ことばの習得が難しくなります。難聴は生まれつきのことが多いのですが、中耳炎など耳の炎症から難聴になることもあります。子どもの耳の健康について、日ごろから気を付けていくようにしましょう。

子どもの「聞こえ」チェック

- 「聞こえてる？」と心配になったら、確認してみましょう。
- 大きな音に驚いたり、目を覚ましたりするか。
 - おもちゃの音に振り向くか。 声のみの指示に従うか。
 - 周囲の呼びかけに振り向くか。 ことばのまねっこをするか。
 - 好きな音楽やCMソングなどに反応するか。

気になるようなことがあれば、保育園にご相談ください。専門的な検査が必要な時は、病院を受診しましょう。

10月号

令和2年10月1日
篠山保育園 園長 足立善一郎

なんでも「1番!」自信家 3歳児

◇言語も運動能力もめざましく発達

話せる単語が増え、言葉で自分の思っていることや考えを言えるようになります。人とつながることの喜びも実感でき、大人が相手なら対話ができるようになり、社会性の育ちに大事な力がついていきます。ですから、この時期、対話をどう育てるかが重要です。又、親離れができるようになってくるのもこのころ。自分の思っていることと、親が考えていることが違って当たり前なんだ、ということに気づき、親が自分の思い通りにならないことに、耐えられるようになっていきます。ほかにも、運動能力が高まり、バランス感覚が著しく育ちます。高いところに登ったり、飛び降りたりと何でもやりたがり、目を離せない場面も。友だちに関心をもつようになり、友だちのまねをして、何でもやりたい気持ちも強くなります。お花の水やりや食事の用意など、大人のお手伝いもできるようになります。自我がさらに強くなり、喧嘩も多くなりますが、友だちと遊ぶ楽しさを知ることで、人に寄り添えるようになっていきます。保育園では、これらの特徴を意識して、お当番活動や運動遊び、また友だちとのかかわりがあるゲーム等を展開し一歩一歩進んでいきます。



➡「何で順番が待てないの!？」という問題。

「順番」という言葉がわかっていないのです。

興味があるものにすぐ手が出てしまう時期であり、何でも「一番」になりたがる3歳児。待てば必ず自分の番がくるという、先を見通す力がまだ育っていないことも考えられます。そういう意味では待てないのは当たり前なのかもしれません。

➡「繰り返し、具体的に言葉をかけましょう」

子ども同士の間では、順番が守れなくてよくトラブルになります。そんな時、保育者は「Aちゃんが先に並んでいたから次にBちゃんね」など、具体的に友だちの名前を出して、言葉がけをしています。繰り返し行うことで、「待つ」という感覚が培われます。順番を待つというルールを守らせることは大切なので、待つことができた時は、「よく待てたね」と、ほめるといいでしょう。

「0歳児から5歳児行動の意味とその対応」 今井和子著

